



手をたずさえて

卒業おめでとうございます

《だから、生きる！》 きみたちの人生のキーワードに…

突然の臨時休業措置。悔しさ、悲しみ、虚しさ…様々な思いや感情が湧き上がったと思います。ウイルスという、放射能と同じ、“目に見えない敵”と戦っている今、きみたちが小学校に入学する9年前、あの東日本大震災と同じような状況に我々は立たされています。心が痛みます。

しかしながら、今日、ここに卒業式が開催できること、この意味はとても大きいもので、本当によかったと思います。

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

富田中学校を支え、様々な活動の原動力となってくれたきみたちは、お父さん、お母さんにとっての大きな誇りであるように、我々教職員にとっても大きな誇りです。そんなきみたちへ、私からの最後のメッセージです。

生きてゆくことの意味 問いかけるそのたびに
胸をよぎる 愛しい人々のあたたかさ
この星の片隅で めぐり会えた奇跡は
どんな宝石よりも たいせつな宝物



《いのちの歌》という楽曲の一節です。

出会うことのできた大切な人のために生きる。大切な人とともに生きる。

《だから、生きる！》

ただ何となく生きるのではなく、夢や希望、目標をもって、それとともに生きる。

《だから、生きる！》

《だから、生きる！》は、今年度の教育講演ライブのテーマであり、そんな想いを込めました。

そして、増田太郎さんは、ライブの中で、次のような意味付けで、私の想いを補完してくれました。

今はまだ夢や目標がはっきりしていない人もいます。だからこそ、これから先、自分にとって大切なもの、夢や希望、目標、それらを見つけ、それらに出会う。…《だから、生きる！》そして、生きるとは、大切なものを見つけ、また会いたいと願う人、訪れたいと思う場所を、増やしていくこと。

挫けそうなのは、あなたが前に進んでいる証拠。

叱られたのは、あなたが愛されている証拠。

辛いのは、あなたが諦めていない証拠。

苦しく感じるのは、生きている証拠なのです。

人生は、“走る川”のように、止まることなく前へ進みます。

どんな岩にぶつかろうとも前に進んでいくのです。辛かったり、

苦しかったりすることは、決して悪いことではありません。

そのためにも、それぞれの「生きる」ということに、自分なりの意味付けをすること、前に進むためには、とても大切なことだと思います。

《だから、生きる！》

これからのきみたちに、人生の節目節目で自分を支え、鼓舞してくれる人生のキーワードとして、心に刻んでほしい言葉です。

最後に、卒業生の君たちに、ひとつの歌を贈ります。最初に紹介した《いのちの歌》です。

本校の若手教員が“いのちプロジェクト”として、心を込めて制作してくれたスライドショーとともに、この歌を贈ります。君たちのお父さん、お母さん、家族、先輩や後輩、先生方、そして、大切な仲間たち。この富田中学校の校舎、校庭、数々の学校行事など…。



出会ってきた人々の顔、風景、出来事を思い浮かべながら、生かされていることへの感謝の気持ちをかみしめながら、スクリーンを観てください。

いのちの歌

歌：竹内まりや

生きてゆくことの意味 問いかけるそのたびに
胸をよぎる 愛しい人々のあたたかさ
この星の片隅で めぐり会えた奇跡は
どんな宝石よりも たいせつな宝物

泣きたい日もある 絶望に嘆く日も
そんな時そばにいて 寄り添うあなたの影
二人で歌えば 懐かしくよみがえる
ふるさとの夕焼けの 優しいあのぬくもり

本当にだいじなものは 隠れて見えない
ささやかすぎる日々の中に かけがえない喜びがある

いつかは誰でも この星にさよならを
する時が来るけれど 命は継がれてゆく
生まれてきたこと 育ててもらえたこと
出会ったこと 笑ったこと
そのすべてにありがとう
この命にありがとう



213名の卒業生のみんな、君たちとの出会いに感謝します。
この3年間本当にご苦労さまでした。そして、ありがとう。

～ 令和元年度第34回卒業証書授与式 校長式辞より ～



保護者の皆様へ 長きにわたるご協力・ご支援に感謝申し上げます

お子様のご卒業おめでとうございます。213名の卒業生たちは、私は入学時から見てきましたが、この3年間で確実に成長しました。卒業生の誕生から今日まで、多くの喜びや苦しみを共にし、見守り続けてこられた保護者の皆様へ心よりお祝い申し上げます。

さて、臨時休業措置がとられてから今日に至る11日の間には、県立高校前期選抜が実施されたり、制限のある生活を要請されたりするなど、卒業生、保護者の皆様も気苦労が続いていると推察します。卒業生達は、まさに幼稚園（保育所）卒園から小学校入学への節目に、あの東日本大震災を経験した生徒達です。開催がどうなるかわからなかった今回の卒業式でしたが、規模縮小等の対応はありますが、開催できたことに、多少なりとも安堵の気持ちがあります。本校教職員は、来賓、在校生が出席しない特別な式という捉え方ではなく、「今、できることを精一杯やって、卒業式を成功させよう！」という想いを共有しながら、「ONE TEAM」で準備を進めてまいりました。また、臨時休業前日、2年生が式場作成にあたってくれました。さらに、今日の卒業式をしっかりと見届けてほしいと考え、保護者代表として



卒業式練習 在校生の式歌 2/25

星PTA会長にも出席していただくとともに、在校生代表として、「送ることば」の二瓶柚乃さん、「旅立ちの日に」伴奏の高橋彩葉さんにも参加してもらいました。

《 別れが、出会えたことの幸せや喜びに気付かせてくれる 》

これからも、我が子を信頼し、心の絆をしっかりと結んでいただくよう、お願いいたします。そして、これまでの長きにわたり、本校の教育活動に寄せていただきましたご理解と協力に心より感謝申し上げます。

